



承認	議長	副議長	事務局長	次長	合議	担当
						

様式第 1 号

令和 7 年 10 月 10 日

真庭市議会
議長 長尾 修 様

真庭市議会議員 吉原 啓介 

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行うことについて届けますので、承認願います。

記

- | | | | | |
|---|--------------|--|-----|-----------|
| 1 | 区 分 | <u>調査研究</u> | 研修会 | 要請・陳情活動 |
| 2 | 訪 問 先 | イタリア文化会館 | | |
| 3 | 内 容 | 1.日伊の学校・地域の交流活動の現状についての
ヒアリング（多摩市とミラノの事例等）
2.ペルージャ市の水の循環を通じた環境維持の
取り組み等、SDGs活動面での連携の可能性摸索 | | |
| 4 | 行 程 | 別紙のとおり | | |
| 5 | 事務局から訪問先への依頼 | 必要 | ・ | <u>不要</u> |

（注）複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



行程表

令和7年10月24日	移動	9:45	岡山空港（※真庭→空港は自家用車）	ANA
		11:00	羽田空港	
		11:28	羽田空港第2ターミナル	東京モノレール
		11:47 11:52	浜松町	JR
		11:59 12:04	東京	
		12:07 12:11	大手町	東京メトロ
		12:14	九段下	
	イタリア文化会館	13:00～ 15:00	1.日伊の学校・地域交流にかかる他地域事例のヒアリング 2.SDGs活動の状況、連携可能性の摸索	
	移動	15:45	九段下	東京メトロ
		15:50 15:52	日本橋	JR
		15:57 16:02	新橋	
		16:05 16:10	浜松町	東京モノレール
		16:28	羽田空港第2ターミナル	
		18:00	羽田空港	ANA
		19:15	岡山空港（※空港→真庭は自家用車）	

報 告 書

令和 7 年 10 月 27 日

真庭市議会議長 長尾 修 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 吉原 啓介



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

記

1. 面談：イタリア文化会館

(1) 日時

令和 7 年 10 月 24 日（金） 13 時～15 時

(2) 場所および相手方担当者

場 所：先方本部

（千代田区九段南 2-1-30）

相手側：稲田周子氏

Chiara Erzegovesi 氏



2. イタリア文化会館について

東京イタリア文化会館はイタリア外務省に属する機関で、世界に約 80 あるイタリア文化会館のひとつとして、日本におけるイタリア文化の普及と日伊文化交流の振興を目的として活動している。

美術、音楽、映画、演劇、ダンス、ファッション、デザイン、写真等の多様な分野で文化催事を多数企画・開催、また、日本の様々な大学や教育機関等との長年にわたる協力関係のもとで学術的な催事・講演会を共催し、日本の諸機関や企業等が主催するイタリア関連イベントの積極的な後援も行っている。

3. 内容

(1) 日伊の学校・地域の交流活動の現状について

（真庭での交流活動について・こちらからの説明）

○真庭市では、4 年ほど前からイタリア/ウンブリア州ノチェラ・ウンブラの高校と交流活動を行っており、3 年前、昨年、今年とイタリアから生徒の短期留学を受け入れている。

○真庭市内の県立高校の活動であるが、現状は県教育委員会や市が組織と

してバックアップしているわけではなく、実質的には同州のペルージャ外国人大学で日本語を教えている東城健志氏と地域の住民団体の特定メンバーがボランティアとして差配している。

○そのため企画・実施体制に関しては、現状、ある意味個人の人脈と調整力頼みであり、このままでは今後の継続に大きな不安がある。

○一方で、交流活動の当事者である高校に生徒たち、また併せて交流活動を行っている市内こども園、小学校、中学校の児童生徒たちには非常に好評であり、現場からの継続を求める声は多い。

○イタリア文化会館の担当エリアは、東日本は東京、西日本は大阪であることは理解しているが、高校レベルでの国際交流活動は私立高校を中心に東日本のほうが進んでいるという印象があるので、ほかの地域での事例などがあれば今後の活動の参考にさせていただきたいと思い、来館した次第。
(先方から)

○先日、イタリアの奨学金団体である EGINA (European Grants International Academy) と、真庭市に短期留学予定の生徒さんが来館され、真庭市内高校とウンブリアの高校との交流及び留学生受け入れ活動について初めて知った。

○西日本における活動は大阪のイタリア文化会館の管轄となるため、東京のイタリア文化会館では把握していないものの、少なくとも東日本においては、単体の高校が留学生の受け入れを行っているという話は聞いたことがない。

○交流の事例としては、東京都立南多摩中等教育校が、ミラノの高校とオンラインでの交流活動を行っていることは知っている。ただ、この件に関しても高校から直接聞いたわけではなく、共通で業務を委託しているシステム会社経由での情報把握で、会館のほうで何かサポートあるいはアドバイスをしているわけではない。

○ほかに聞いている話としては、茨城県立勝田高校が同じような交流活動を行っているようだが、地域の小中学校まで含めた活動ではない。

○そういう面では、高校だけでなく幼稚園・小中学校まで広く交流活動を展開するという真庭市における取り組みは突出したものだと思う。

○ご説明のとおり、個人のスキルに頼りきりの状況では活動継続は難しいと思う。ただ、イタリア文化会館が主体的に何かできるかということとそれもまた難しい。

○自治体等から、具体的に文化面その他総合的なサポートにかかる相談があれば、領事館とも連携して何かのお手伝いはできるかもしれない。

(2) 水の循環を通じた環境維持等、SDGs 活動面での連携の可能性について (こちらからの説明)

○大阪・関西万博のイタリア館では 9 月上旬にウンブリア州のホストウィークがあり、その際、ウンブリア州知事、ペルージャ外国人大学の学長と少し話をした。

- ウンブリア州のノチェラ・ウンブラは、イタリア国内でも有数の名水の地とのことで、水の循環を通じた環境維持等、SDGs 活動に取り組んでいると聞いた。
- 真庭市も国内における SDGs 先行地域となっており、また、水源の郷としても国内他地域と連携した活動を行っている。
- こうした互いの共通活動を通じた自治体同士の交流サポートは可能だろうか。
- また、東日本エリアにおいてこのような交流活動を行っている自治体についての情報は把握されているだろうか。
(先方から)
- ノチェラ・ウンブラが名水の地ということは恥ずかしながら初めて知った。
- 東京のイタリア文化会館ではそのような活動の事例については把握していない。残念ながら、アジア・オセアニア、アメリカと比べて、ヨーロッパ圏の国との交流はなかなか進んでいないのが実情だと思う。
- 自治体間の教育、文化、産業、観光問題への取り組み等の広範な情報交換や交流の橋渡しはもちろん可能だが、管轄は大阪の領事館になると思う。

3. 面談を終えて

高校同士の交流活動はもちろん、市内のこども園、小中学校における海外からの留学生との交流活動は海外への興味や、言葉を学ぶ楽しさ、受験や定期試験の科目としてではなく、コミュニケーションツールとしての英語の魅力を知ってもらうという点からも市内の子どもたちにとって貴重な経験であり、今後も継続していきたいが、そのためには当事者である県立高校だけでなく、真庭市ももっと主体的、積極的に関与して組織として対応できるような体制をつくらないと確実に行き詰ってしまう。

あらためて市内の高校と話し合うとともに、市の教育委員会とも今後のサポート体制について協議し、あわせて大阪のイタリア領事館、イタリア文化会館にも具体的なビジョンをもって相談できるような計画を策定・提案できればと考えている。

以 上